

韓国・知識財産処に学ぶ「バイブコーディング」業務革新：幹部から始まるAI民主化

2026年、韓国の知識財産処（IBKIPO）は、幹部自らがAIツールを開発する「バイブコーディング」を導入。
現場発の内製ツールを組織全体で共有・資産化する「開発－共有－拡散」の好循環モデルを構築。



主要国の知財当局におけるAI活用の特徴を比較

主要なAI施策

独自の
アプローチ

 韓国 知識財産処	 米国 USPTO	 日本 特許庁
バイブコーディング	SCOUT	JPO AI ビジョン
幹部自らの実作、社内アプリ市場の運営	審査官による内製ツールのボトムアップ展開	人間中心の原則に基づいた基本方針の策定